

令和3年度総合教育会議議事録

1. 日 時 令和4年3月17日(木) 14:00～15:30
2. 場 所 大田市役所 4階大講堂
3. 出席者 大田市長 楫野 弘和
教育長 武田 祐子
教育委員 梶 伸光
教育委員 竹下 ちとせ
教育委員 仲野 義文
教育委員 福間 信隆
教育委員 木村 貴子

(事務局職員)

政策企画部長	飯田 徹
教育部長	森 博之
教育部総務課長	勝部 浩司
学校教育課長	坂井 務
社会教育課長	後藤 裕之
石見银山課長	縄 和仁
学校給食センター長	田村 剛
教育部総務課長補佐	西上 基道

(取組説明)

大田小学校	校長	矢田 悦夫
第二中学校	校長	和田 美佐
第三中学校	校長	平田 ゆかり
大田市PTA連合会	会長	土江 隆文

4. 傍聴者 7名

5. 会議内容

意見交換

テーマ

「with コロナ時代における学校の運営について ～現場をまじえて」

(1) 開会

森教育部長 本日は、現場からの声をという事で校長先生・PTA連合会会長様をお招きしております。大田小学校矢田校長先生、第二中学校和田校長先生、第三中学校平田校長先生、大田市PTA連合会会長土江会長でございます。総合教育会議についてご説明致します。この会議は平成27年度から開催しております。市長と教育委員会の十分な意思疎通を図って大田市の教育の課題、或いは、あるべき姿を共有して取組の方向性を共有する事を目的として毎年度開催しております。会議の時間については概ね15:30を予定しております。

本日のテーマは「withコロナ時代における学校の運営について」としてしております。コロナ感染症が発生し2年がたち、現場の中で色々対応が変わってきております。まだまだ収束が見えない中、コロナ禍の今、現場では何が起きているのか。先程、ご紹介しました小学校、中学校、PTA連合会の方から現場の声を伺いし、それを聞いた後で意見交換していただきたいと思っております。ここからは、武田教育長におねがいしたいと思います。教育長お願いします。

(2) 内容 (進行：武田教育長)

教育長 教育長の武田です。それでは、本日のテーマ「withコロナ時代における学校の運営について」です。まずは、この大きな柱の一つとしてGIGAスクールを取り上げてみたいと思います。

今年度より、現場において様々な活用をしていただいております。先日の学力担当者会においても、昨今の取組の情報交換をしたところです。本日は、まず三中の平田校長先生から臨時休業中や日常の場での活用についてお伺いしたいと思います。

平田校長 三中の取組について紹介したいと思います。本校は平成30年度にIT教育を推進するためのご寄付をいただきまして、その資金を基にスペックの高いノート型パソコンを13台購入しプログラミング学習に取り組んで来ました。毎年外部の方をお招きして技術の時間以外にプログラミング授業を5～10時間組んでまいりました。そういう背景も有りましたGIGAスクール構想事業によって校内LANも更に充実されましたけれども、以前からおこなっていたオンラインの活用による交流授業などが、今回臨時休校中に大変役に立ちました。長期休業中は各個人が自分用のパソコンを家庭に持ち帰る事を許可していますので、それを持ち帰って教育委員会から入れて頂いた未来シードという教材アプリで、小学校から中学校の全教科の復習や予習も出来て、自分の学習進度に併せた教材を自分で選んで自分のペースで勉強出来るというものを活用しております。この度、1月に臨時休業となった時は、長期化しそうだという事でしたので職員の者にオンライン授業が出来るような体制を作って下さいという事を伝えてありました。子どもたちは、ズームの使い方を知らなかったなので、ズームの使い方について講習を開いて、朝起きたら立ち上

げてこうするんだよという事をやりました。今年度1月21日から31日まで臨時休校だった訳ですが、その内の6日間計18回オンライン授業を行いました。3年生は2日に1回、学校に来ていましたのでオンライン授業の対象外として、1年生を対象に授業を行いました。方法としてはズームを使用して各教科担当が1限目から3限目まで時間通りに授業を行いました。主に英語、数学、理科、社会、国語というところで保健体育も行いました。良かった点は朝礼を行うことで、学校が開かれている時間帯に子どもたちが起きて、顔を洗って座るという生活リズムが崩れずに済んだのではないかと考えています。三中生徒さんは、真面目なので服装は自由で良いよと言ってあったのに、みんな制服を着て、背景を何処かのさまざまな国に変えていました。上着は制服を着て座っていましたが、下はパジャマのままかもわかりませんが、それから良かった点として、自分の部屋で学習が受けられるので、周りの生徒のガヤガヤが聞こえず集中して自分の学習が出来るという所が良かったです。一方で、話し合い活動が難しいという事がありました。それから教材が画面に限られるので、特性のある子どもたちにとってみると、視点が限られるので、学習効果が高かったかなという点がありました。それから、教科書がそのまま教師用パソコンに入っていますので、それを利用して英語などは特に単語がフラッシュカードのように出て英語の発音など全て生徒の方へ流れるので非常に使いやすかったという事がありました。普段と同じような授業が出来たという事です。

難しかった点として、共有画面1画面を生徒に示した時に、生徒の顔が端に小さく表示されるので1人1の子どもたちが、それを読んでいる時や発音している時、どんな顔をしているのか反応を読みづらい事がありました。それから通常の授業ですと空気感というか、そういうものを見ながらやっているのですが、そこがなかなか伝わりにくい。子どもたちが本当に理解しているか伝わりにくいという事がありました。時間も30分と限られていますし、その画面に写す事しか出来ないのも教材研究が普通の授業と違って大変だったという教員もいました。こちらからワークシートとか資料データで送って、そこで生徒が自宅でクリックすれば問題とか資料とかを見れることができるけど、実際そこに書き込んで合っているか、合っていないかについては、自宅にプリンターがある子どもは、それを紙に出して書いて、カメラの前で「先生こうなりました。」と丸付け等ができるのですが、或いはそれを写して送ってやり取り出来るのですがプリンターまで常備している家庭は少ないので、学校から送れるけれども、こちらへは戻って来ないという所がなかなか難しいところでした。

教員もズームの使い方に長けている者とそうでない者もいて、本来ならホワイトボードにもズームの機能で書き込んだりする事が出来るのですが、「そんな機能知らなかった。」とかホワイトボードを持って来て写す教員もいました。うめないといけない技能差とかがあると感じました。

今回、たまたま各家庭に Wi-Fi の環境が整っていたので、じゃあやるよという事で出来たのですが、Wi-Fi 環境の無い家庭があると、これは難しいなと思います。それからズームが無料で使える時間が 40 分という制限がありますので、その範囲の中で、授業なので 30 分になりました。30 分間行って、切って、又一から入り直してという事になりました。時間と参加人数が無制限になればもう少したくさん授業が出来るかなと言っていました。利用の研修という事は自分達から出来ない面があるので、教育委員会で集めていただいて一斉に研修するというような機会があると良いなと思いました。

教育長 ありがとうございます。説明にありましたように、既に三中は平成 30 年に企業さんからのバックアップにより、先進的な取組を進めていただいています。説明を受けられて委員の皆さん、市長さん、傍聴に来られた方々もご意見ご質問があればお願いします。

仲野委員 ありがとうございます。正直言ってコロナ禍の G I G A スクールに期待していませんでした。今年度から導入されて、学校ではルール作りだったり、先生もパソコンに慣れていなかったりで、実際に学校現場でどんな対応になっているのか、アップアップでやっておられる状況かなと思っていました。ところが今日、三中さんのご報告を聞くと事前に何年も前から I C T の教育に力を入れておられて、実践の蓄積というのが、この危機的な状況の中ではっきりさせられたというのが本当に正直言って驚きました。

いくつかの問題点を指摘されていましたが、もちろん先生達は新しく替わってこられるのでその都度その都度、技術・スキルをどうやって身に着けるか、研修プログラムというのが必要になって来るということと、ズームの使用料というところは効率化のために予算化というのは本当に必要ななと思いました。

そういった実践を他学校の先生達はご存じでしょうが、再度共有していただくと、胸を張って他の地域に紹介出来るのではないかなと感想として思いました。

教育長 ありがとうございます。他にありませんか。

梶 委員 今回の三中の事だけではなく、今日来られている大田市内の校長先生方にコロナ禍におきまして衛生面とか授業とか行事とか、或いは人権問題とか本当にご家庭と地域と連携を取られてご苦労されて来られている事に敬意を表したいと思います。大変頑張っておられるなと思います。

三中さんの発表を聞かせていただきまして仲野委員さんと同じように私も本当にここまで先生方が頑張っておられるなという気持ちが強く致しました。O E C D の調査で日本が授業で P C を使って授業するのが世界で一番低いという調査が出ていまして、P C を使って読解をして行く力も非常に弱いという事がありました。その反面ゲームなどは日本がかなり高い位置にありました。そういった中で Society 5. 0 時代として A I 等を使って大変な時代が来るという事で、これはもう避けられない状態

だなど学校の方は色々な事を抱えて大変でしょうが頑張っしてほしいなど思って居りましたが、本当に非常に素晴らしい成果を上げておられました。支援ツールの未来シードといったものは家庭学習に役立つでしょうし、リモートで朝礼とか授業がなされている事に、まず驚きました。本当に素晴らしい実践をされています。質問があります。話し合い活動が非常にし難いと言われましたが、これは慣れて来ると可能なのですか。

平田校長 生徒は場の雰囲気を感じながら発言したりするのですが、画面上だと読み取りにくいので、先生が話した事にいっぺんに2人がしゃべってしまうと、そういう事が起きます。あうんの呼吸といいますか、そこら辺が掴みにくく、2人が同時に発言してしまい聞き取りにくいといった欠点はあります。

梶 委員 あせらず一歩ずつ、これを進めていただきたい。ありがとうございました。

教育長 他にありませんか。感想でもよろしいです。

福間委員 私も三中さんの発表を聞いて驚いたところです。実をいうとGIGAスクールについて今日話をしないといけないという事で、事前に子どもたちに実態を聞いてきました。しかし三中のようなことは出来ていないという事でした。前例があるかどうか調べたところ、熊本市がまさにこの通りでした。地震とコロナの影響によって、GIGAスクール構想で1人1台の学習をやっていますが、まさに、テレビの画面を利用した意見交換をした実態があり、これがこれからの教育だと思いました。

我々の時代は、全くこんなことが考えられない時代でしたので驚いているところです。先程から出ています様に先生方の考え方・扱い方・研修というのが非常にこれから大事になって来るのではないかという気がしました。そういったものを積重ねていって1つ1つの事を実績としてあげていただきたいと思いました。子どもたちが積み上げて行った状況は把握出来るのでしょうか。例えば学習を通してやってこういった所につまづいているとか、そういった事の把握が、今後課題になって来ると思います。

竹下委員 私達もコロナ禍で2年間、学校へ出向く事が出来ませんでした。2021年の総合教育会議の時に説明していただいて、その後どうなっているのかと思っておりましたら、今日の発表でかなり充実した形で学校の方は進んでいると聞かせていただいて安心しました。

先日、卒業式に中学校へ行かせていただいて、その時お聞きしたら1人1台の端末で、授業でも取り入れて活用が出来ていて、ドリルソフトにてポイントを貯めるような授業のやり方も出来ていて、かなり活用して進んでいると話されていました。やはり1つ問題として挙げられるのが自宅へ帰った時に、自宅にWi-Fiの環境のある子とない子というのが一番大きな壁だった。というふうにおっしゃっていました。何とか整備していただきたいと思います。Wi-Fiの環境が出来れば、例えば不登校の子どもさんとか、そういった子どもさんもそういった授業の中に参加出来る

環境が整ってくるので、場所を選ばず時間を選ばず出来るのではないかと思います。

そして、こんなふう子どもたちが機器を使って行くというのは、教育改革の第1段階だと思います。これから更に子どもたちがツールを使ってプレゼンしたりとか、どんどん配信して行くとか、そういった方向に向かって行き、更にはAIの活用によって個々人が最適な学習をしていく形に進んで行くというふうに思います。本当にまず第1歩のところ、まずこういうふうに進んで行くという事が一番大事な事ではないかと思います。

そして、こういった進み方が、学校の中はもちろんですが地域とか保護者とか、そういう人にも発信して行って子どもたちがその機器を使って地域の事取材したりした時には、こういう学習の一環でこんなふうに行っているんだと、わかる様に地域全体にも伝えて行く必要があるのではないかと思います。

デジタル化というのは、授業改善はもちろんですけど、もう一点として校務事務の効率化という事もあると思います。これは学校における働き方改革の一端を担っているのですが、数年前に学校の事務事業の一本化が行われました。それとの関連はどうなのかということをお聞きしたいと思います。先程、お話にありましたデジタル化に不慣れな教員にとっては負担になっているのではないかと、そういう事になると働き方改革ということから考えた時に逆行するような事態になってしまうのではないかと懸念もあります。

デジタル化というのは教員が研修する時間を確保して、児童、生徒に向き合って行く時間を充分確保する事が目的であるという事を忘れないようにしてほしいと思います。

デジタル化によって必ずしも良い結果ばかりではないと思います。東京町田小学校の事例ですが、チャットによるいじめで小6の女の子が自死した事態も発生しています。トラブルなどもありますので情報モラルに関する教育を授業で使うと同時に、車の車輪のように教育していただきたいと思います。

デジタルモラルについて子どもたちは、プログラミングなどは面白いなと思ったら、どんどん学習して行くと思いますけれども、一方でモラルについては自分で学習する事は出来ないのです。これは必ず学校とか、地域とかも含めて教育して行かないといけないと思います。

大田の教育月間で銀山テレビにて色々放送していただいたのですが、その中でこのような三中の取組であったり、そういったものも新しい教育に関する事などももう少し承知する事が必要なと思います。

教育長

ありがとうございました。GIGAスクールをきっかけにしてIT機器を子どもたち又教職員が有効に活用していくことが重要です。ささやかでも貴重な実践を積み重ね、持ち寄って大田市共有の財産を作って行かないといけないと強く思っております。先程から様々な課題をご提案い

ただききありがとうございました。参考にさせていただきます。

楫野市長

委員さんより、お願いしたい事が3件ありましたがこれについて回答を願います。

坂井課長

1件目、生徒さんの家庭でのWi-Fi環境の整備については、貸出用のルーター50台準備をしております。通信にかかるSIMカードは、自己負担をお願いしています。

2件目、ズーム等のライセンス取得の為の予算化でございます。ズームを始め様々な通信ツールアプリがございます。どれを活用するのが最適なのか、ふまえながら活用状況を見極めながら予算化を今後検討していくという状況になるかと思えます。活用状況を各校からお知らせいただいたり、或いはこちらよりサーチさせていただくような形を取らせていただくよう考えております。

3件目、先生方の技術向上のための研修ですが、今年度3回行っております。それぞれ各校よりたくさん参加をしていただきました。又、研修もオンラインで行うといった事もさせていただいております。今年度1年間で大変、先生方の技量が向上し授業での活用も進んで来ましたので、来年度は更に充実した形の研修を進めようというふうに計画しております。又、教育委員会が出来る事とは別に、そういった得意な先生方や興味を持っておられる先生方が自発的に研修なされて行くような事があれば良いなと思ったり、或いは市教研等と一緒に企画され、ニーズに応じた研修も自発的に起きて来ると、更に進むことも考えております。来年度もより良い形で研修が出来るように考えてまいりたいと思えます。

教育長

では、2つ目の柱について進みたいと思えます。子どもたちが、このコロナ禍で日常の学校生活でどういう変化があったのか、学校生活にどういう創意工夫をしなければならなかったのか等、大田小学校と第二中学校の校長先生からお話を伺います。まず小学校の現場ではどうであったのか大田小学校矢田校長先生、お願いします。

矢田校長

学校生活における大きな変化は2つあります。1つ目はマスク生活、2つ目は3密禁止、これが学校生活の中において大きな変化だと思います。この2つによる影響として一番大きいなと思っておりますのは、児童、教職員、保護者、地域間こうした人と人との繋がりが弱くなってしまっているという事が挙げられます。その理由としましては、1つ目は3密禁止によりまして繋がりがたくても繋がれないという状況になってしまった。2つ目の理由としましては繋がらないという事が長引いた事によって、繋がらない事に慣れてしまっている。又は、繋がらない方が楽だと思われてしまっているといった事もあるのかと思っております。これらによる悪い影響としまして自分1人又は狭い範囲での生活にならざるを得なくなっている。又は人との関わりが薄くなった事で人との関係を築く力、繋がる力そういったものが低下して、友達とのトラブル等についても若干増えている印象を受けています。又は子どもたちのストレスも高くなっていて、学校でもイライラすると発する子もいます。

なぜ人間関係が嫌いになってしまったのか私なりに考えて見ますと、マスク対策によって子どもたちの表情が分からない。マスクで顔を半分隠しているので子どもたちの名前が覚えられない。表情も分からない、そして給食等もそうですが黙食しております。子どもたちの会話も減ってきている。子ども同士の会話も減ってきている。3密禁止となって全校児童が集まれなくなっております。特に大田小学校は、児童数が約450名おりますので集まりにくい状況になっております。それから、お互いに距離を離れて生活するという事でこれまでは、子どもたちは、じゃれ合いながら、くっついて相撲をとったりする事があったと思うのですが、今は極力離れなさいという事になりますので、こういう事も子ども同士の繋がりが希薄的になる原因に成ろうかと思っております。

次に学校生活での運営上の苦勞になります。授業の影響につきましても、これまでやっていたグループ学習とか、ペアによる学習という顔を合せて意見を出し合うような環境が出来にくい状況になっておりますので、いわゆる講義形式で前を向いて、一斉授業的な雰囲気での授業がどうしても多くなりがちになっています。そして、お互いの表情を見合って相手の気持ちを想像しながら物事を考えないと、そういった事も出来づらくなって来ている。更に音楽、体育、図工、家庭科などの実技系教科につきましても、道具を共用したり、身体接触ができづらい状況で、体育学習なども離れてするという事で活動内容の選択が難しい状況にあります。大田小学校は、児童数も多くてこれまで水泳学習は学年毎に入っております。1度に80～90人位が入っていましたが、これも規制されているという事で、学級別で30人前後に減らしております。また、これまで地域の方、外部講師の方にはたくさん来ていただいたり、出かけて行ったりという事も頻繁にやっておりましたが、そういったところも機会が無くなってきていると言えます。また、多様な教育活動が出来にくくなっているなという事を感じております。学校の行事の影響ですが、始業式、終業式こういった全校集会的なものは、大田小では分散型で行っております。この度の終業式も校内放送で退任式を2回に分けてやりたいと思っておりますが、終業式については、校内放送で行うというふうにしております。それから運動会とか学習発表会、こういった行事も時間短縮又は規模縮小となり、これまでに比べて少し物足りない物になって来ていると思います。子どもたちの個性を伸ばす対外的な大会等、陸上大会、水泳大会、体操大会等、得意な子どももおります。部活動等で活動している子どもたちの発表の場が無くなったというところにも影響があります。いわゆる体験的な活動が非常に減っている事、あと、お互いを見合ったり、知り合ったりするという事が出来づらくなっているという事はあります。日常生活への影響は、休み時間に子ども同士が集まって、かたまって、雑談するという事も減ってきています。教室の光景として、よく休み時間に担任が教室で片付け等していますとその周りに子どもたちが集まって来て、子どもが、一斉に先生、先生と喋って色々な雑談をする場面もありま

したけれど、今その光景もなく席について読書をしている現状を見ると寂しいという思いをしております。

マスクを着用しての生活という事で、外遊びの時にはマスクを外しても良いという指導していますが、中には外すと怖いという思いの子どももいて、そういう子どもは、外遊びを控える現象があります。私は、大田小学校の良いところは、業間昼休みの時間になると子どもたちが、どんどん外に出て来てみんなでワイワイと大騒ぎして遊んでいる光景、これが大田小だなと思っていたのですが、校庭へ出て来る子どもたちの数も減っているなというふうに思います。子どもたちのマスクを外す事への不安、外しても良いと言っても外したくない、外すと怖いという子もいます。感染する事への恐怖から、やや神経質になって来ているように思っています。

全体的な影響につきましては、最初に言いましたけれど人と人との関わりといったところが減って来た。お互い気持ちを通じ合う人間関係作りというのが難しくなって来たと感じているところです。

こうした中で学校運営を色々工夫して行っているところですが、そのいくつかを紹介させていただきます。

まずタブレットとか電子黒板、こういうものを購入していただいています。感染症の影響でグループ学習という話し合い活動、思考活動等が出来なくなったところを、I C機器を使って補って行きたいと思っています。授業参観は、保護者の皆様に学校での子どもたちの様子をしっかり見ていただく予定でしたが中止になる事もありました。それに代わる措置として、オンラインによる授業参観を行いました。子どもたちを近くで見れないことは良くないが、何となく学級の雰囲気を感じる事が出来ました。と言うような感想を保護者の方からいただいています。

コロナ禍における健康管理の方も大事になってきますけれども、これまで一斉のメールでやっておりましたが、今はグループホームを活用して子どもたちの健康状況、家族の健康状況も把握しております。先程の子どもの表情、名前が覚えにくいと言いましたが、職員室の方で職員会議を行っていますがパソコン上で子どもたちのマスクを外した顔写真、そういった物を見ながら会議を行っております。人数が多いと自分の学級以外の子どもの顔は、なかなか覚えにくい状況で、顔写真を見ながら子どもの顔と名前を覚えるという努力もしているところです。

また、対外試合の中止は子どもたちにとっては、とても残念な事です。今年度の場合には、体操大会、創作ダンス、ファンファーレバンドの発表これが出来なくなりました。その代替え措置として、校内発表会という事で規模は小さくなりましたが保護者の方へも声掛けをして体育館の方で体操の発表会とか、ファンファーレバンド部の校内発表会であるとか、ダンス発表会を行いました。

また、全校一斉の集会活動が出来ないという事で、分割による分散型の集会活動に切り換えています。先ほども言いましたが着任式、始業式、終業

式又は学習発表会こういうところは人数を減らして分散型の活動という風にしております。運動会等も午前中開催でコンパクトになっていますが、なるべくコンパクトでも質が下がらない方法というものを職員で検討しながら行っているところです。今後もいろいろ工夫する点ではありますが、人と人との繋がり確保、関わりをしっかりと強化して行く事又は学び合いのある授業づくり、こういう事についても今後も職員と相談しながら考えて行きたいと思っております。

教育長

ありがとうございました。続きまして第二中学校和田校長先生、今年度、たいへん部活動の活躍が目覚ましかったのですが、日常の子どもたちの変化に併せて部活動における取組等も含めて、よろしくお願ひします。

和田校長

子どもたちがコロナを身近に感じるようになったのは、新3年生が中学校に入った時からになります。with コロナの時代に入っている訳ですが、その中で中学生として、子どもたちに人を守れる人になってほしいという観点で子どもたちを育てて行きたいと考えています。

中学生ですので体力はある方だと思いますが、自分達は、かかり難いかも知れません。だからと言って人にうつしていかないといった、人を守れる人になってほしいということ、それと、感染症なので誰でもかかる可能性がある身近な感染症ですので、子どもたちにとって自分の事として考えられる、また、相手の立場に立って考えられるという、人権教育に有益な題材として取り組んでいます。

感染症予防をとおして、with ウィズコロナ時代にどんな力を中学生に育てていきたいのかという視点で学校運営しております。

感染症予防の取組ですが、まずいろんな取組を各校しておられるので、決して新しい事をしているわけではありませんが、本校は自分の意識で出来る事を、誰かに言われなくても自分が出来る事とすることで、特に実施しているのが常時換気です。教室は常に開けてありますので、その分防寒着を来て良いとしています。ただ、子どもたちは防寒着を着ていますが、職員室へ入る時は脱いで入るという、ここらへんは子どもたちもわかっているんだなという事を感じています。マスクも早い段階から不織布にお願いしますとお願いしていますが、マスクの着け方、外し方も養護教諭の方が全校放送で指導し、映像とかも使ってマスクの着け方、外し方を全体に指導して必ずマスクの紐を持つ場所とかも指導しています。あと、必ず手指消毒、それから朝の検温これらは言われなくても当然するものとしています。健康観察という事で、感染症のレベルによって、活動の制限が変わったり留意点が変わったりありますので、朝は必ず自分で朝体温を測り、家の人に確認していただいて、担任がこれを確認するという事にしています。健康観察を徹底して校内に出来るだけ持ち込まない事に留意しております。ここに書いてある事は、中学生であれば自分の意識で出来る事、自分を守るために出来る事として行っています。

2番目の所ですが、体育祭、文化祭も時間制限をしたり、種目によっては密にならない種目や、応援合戦の方法を考えたり、それから合唱コンクー

ルも市民会館をお借りしたり、色んな変化がありますがもうそれは、しかたないものとして感染症と付き合っていくこととして何が出来るのかというところで、生徒会専門委員会の活動としてご紹介するのですが、本校も体育館や図書館が密にならないように人数制限して使うようにしています。その中で専門員会の生徒が、使用した用具を消毒している様子です。使用した物、使用していない物に分けて消毒をして行くという活動をしています。図書委員も声掛けをしたり、自分達の方から密にならないという事の取組に活かしてくれています。学校行事の参加というところで密にならないということ意識して、それでは何が出来るのかということ自分達で考え、3年生を送る会にて、新生徒会が先日、大変頑張ってくれていました。少し分かり難いのですが、右側の写真は2年生が外でパネルを使って卒業メッセージを作ったものです。これを3年生だけが体育館にいて1、2年生は各教室でリモートで参加して自分達の出し物は映像で送って行くというもので、自分達の出し物も外で映像を撮っていました。どうやったら密にならなくて3年生を見送れるんだろうかという事を子どもたちだけで考えて、天気の良い日はこうしよう、天気が悪い日はこうしようと考えて、この日は幸い天気が良かったので、3年生には内緒で、普段は使っていない体育館の外側の通路を開けて、普段はそこを通らないように言っているのですが今日はここから出て行こうという事で、外側で1年生が待っていて、外から3年生を見送ったという事があります。今の状況で出来る事を生徒会メンバー中心に考えて対処してくれたところです。

卒業式では、在校生代表のみが参加しました。その中でどうやったら皆で作る卒業式になるんだろうという事で、3年生の胸飾りについて、何時もは買っているのですが、これも1年生が作ったものを付けて卒業式を行いました。また、本校には、3年生の1クラスに37名程度の生徒がいます。生徒の体が結構大きくなっていますので、保護者の方が入って最後の学活をとというのは難しく保護者の方には他の教室へ分かれて入っていただいて、最後の学活はリモートで見ていただくといった事を行いました。先程、部活の事も言っていたのですが、原則、部活動は県や市の教育委員会が示されるガイドラインにのっとって運営しています。また、本来ある部活動のガイドラインにも則って運営しています。その中で必ず活動前に健康観察で、少しでも風邪症状がある生徒は、その日は部活動へ参加させず帰るということにしています。その時に右上にあります。各部の体温計と消毒液がありますので、部活の前にそれを持って出て、体温を測って部活の前後に消毒をするということにしています。また、体調の悪い生徒は参加しないという事を徹底しています。感染レベルによってはマスクを着用した活動を行った事もあります。これは、健康被害になるのではと心配な面もありましたので、あまり極端な事にはならない様にという事でしたが、島根県に蔓延防止措置がとられた時にはこういった事も行いました。それから野球部が全国大会出場し優勝を飾らせていた

だいた時には、祝っていただいたり、支援いただき大変ありがたく思っております。子どもたちも行く時に千葉県は緊急事態宣言が発令されましたので、大変な緊張間の中で出かけて行きました。しかし、開会式が中止となり、1日空白の時間が空いてしまったのですが、本来であれば開会式の時に人工芝を踏めたんだそうです。開会式がありませんでしたので、試合でいきなり人工芝を踏むというという体験になったそうです。人工芝で普段部活動をしていけませんので人工芝で初めて野球をするという事は、本校の生徒にとっては、大変大きなハードルだったと聞きました。その中で大変ほめていただいたのが、すごく足元にを留意して、エラーをしなかったという事をほめていただいたのですが、開会式でちょっとでも人工芝の感覚を踏めていたら、という話も出ましたので、コロナという事は、こういうところへも影響があったのだなという事がありました。大田へ帰って来た後ことです。子どもたちはわりと体力があるため、発症しにくいかもしれないですが、やはりいろんな方にうつさないために、教育委員会の方にお世話になって、2回PCR検査を実施していただき、2回の陰性を確認してから学校に戻ってきました。その間は、家で過ごし健康観察も学校に報告してもらいました。

全国大会出場の野球部に限らず、県外に出かける部活動が、本校には他にもあります。当然ガイドラインに則っての参加ですので、どの部活動も県外に出た後、ある一定期間自宅で待機してもらってから学校の方に復帰してもらおうという事になっています。その都度、行先、感染状況によって何日間、自宅で過ごすか、或いは自宅で過ごさないとか、話し合いながら保護者の方にご了解を得ています。野球部に限らず、県外へ出かけた部活動については、一定期間昼食は他の生徒達とは一緒に食べないという措置を行っています。必ず一定期間、養護教諭が朝のところで健康観察、血圧を測ったり状況を確認して教室へ戻って行きます。子どもたちにとって、学校に復帰してもこういった制限があったり、保護者の方にも大変ご負担をお願いしたところですが、ご協力をいただいでみんな元気で学校の方へ戻ってくるという状況があります。保護者の方、地域の方に理解していただいでいますが、今も申し上げましたが部活動の参加等に関しましては、本当に保護者の方に理解していただいで、みんな元気に参加が出来る所です。

それから、夏休みの終わった後の奉仕活動は、感染状況が高まっている時でしたので、急遽分散で実施しました。急な対応でしたが地域の方も本当に柔軟に対応していただきまして奉仕活動が進みました。

先程、大田小学校の報告がありました子どもたちのかかわりの部分で、グループで何かをするというのが難しくなっています。その中で何とか実の体験をさせてやりたいと思った時には、グループを出来るだけ小さく分けるしかないと思っています。特にふるさと教育については、グループを分ければ分ける程、地域の方、講師の方の人数が必要になってきますが、学校運営協議会や地域コーディネーターの方に協力していただいで、

小さいグループに分けながら実施する事が出来ました。

普通の学校を開いて行くという事は、なかなか対策が出来ていません。体育祭、文化祭は場所を変えたり、外であったり、市民会館であったりということで保護者の方には、2年までの参加でという事をお願いして参加していただいています。なかなか授業参観に来てもらう事も出来ておらず、どうしても紙での報告、或いはホームページでの報告となっていますので、学校を開いて行くという事に関しては、まだまだ工夫が必要だと考えています。以上です。

教育長 両校長先生ありがとうございました。みなさんいかがでしょうか。感想等ありましたらお願いします。

木村委員 コロナが発生し2年になりますが、正直大人も子どももへとへとな状態の中で、自分達の生活もまだまだ気を付けて行かなければならない中、学校で先生方が子どもたちのためにすごく頑張っていただいているという事が良く分かりました。この前、臨時休校中に2月1日から学校がスタートしますという連絡があった時、「友達には会いたいけど、色々考えたらすごくめんどうくさいな」といった意見を子どもから聞きました。私も神楽の活動に携わっていますが、そろそろ練習を始めますと聞いた時、複数校の児童生徒が集まって大丈夫なのか、気を使いながら大会を開催するのか、しないのかといった話し合いをしながら行うことに対して、やる気が無くなっている感じがありました。

臨時休校の時、子どもも外へ出てはいけないということがありましたので、ずっと家の中にいて、少し学校から持って帰ったタブレットのアプリの学習を行い、すぐにゲームということを繰り返していました。すると、だんだん子どもの顔が青白くなってきたので、天気の良い日は、外へ出るようにしました。

体力面について、新聞やニュースにありましたけれど、スポーツテストなどにおいても段々体力も無くなって来ているとありました。そうすると、学力も結局やる気が無いためより低下するのではないかという不安が保護者としてあります。

マスクをすることで表情がわからなくなったり、給食が黙食だったり、楽しい行事も殆ど中止や延期になっていますので、この2年、子どもたちは、学校生活が本当につまらないと感じていて、そういうことが重さなって、面倒くさいということになっていると感じています。

教育長 保護者としての心配も合わさってのご発言ありがとうございました。

他に委員の皆様なにかありませんか。

竹下委員 学校の様子を聞かせていただきありがとうございました。

実際、子どもたちはどんなふうになっているのか、このコロナの中で元気がなくなって、いろんなことが出来づらくなっているのではないかと、本当に心配な事が一杯だったのですけれども、先生方のお話をお聞きして、その中で、予想以上に先生方がいろいろ工夫をして、教育活動を進めておられるという事を聞いて、ある意味半分安心しました。

私もこの間、中学校へ久々に行かせていただいて、そこで校歌、国歌や吹奏楽演奏など、全てが録音だという事を初めて聞いて本当に驚いたのですが、生徒さんたちが、送辞とか、答辞の中で、この困難な学校生活の中で、どんなふうに自分達は、色んな事を前向きに頑張ってきたんだという事を伝えておられるのを聞いた時に、今までの形とは違ったかもしれないけれど、そこで敢闘した思いが伝わってきました。来賓は私1人でしたが、式へ参加できた感動がありました。

ある番組で卒業式の様子をやっておりまして、それは、簡素でも心に残る式にという事で紹介されていました。その学校では、事前にマスクの無い児童生徒が歌っている顔を撮影しておいて、卒業式の時に児童生徒の顔が全部見える様にして、合唱する姿を保護者に見せるというやり方をしていました。

コロナ禍において、先程もデジタルを活用すると仰っていましたが、デジタルとリアルの関係性について、ある本に書いてあったのですが、これまではリアルの世界の中にデジタルがあった。でもこれからは、デジタルの世界の中にリアルの世界が包まれていくという社会に変わっていくのだと書かれていました。デジタル社会に移行して行くのは必然なんです。だから教育の中で、何をこの子どもたちに伝えたいか、リアルかデジタルかでなく、どちらも利用しながらいいものを子どもたちへ伝えて行く事が大事ではないかと思いました。

梶 委員

両校の校長先生ありがとうございます。想像以上に子どもたちが制約を受けている事に驚きました。先生方は本当に苦心されている、その中で大田小学校では、とにかくかかわりが絶えないという事で、タブレットや電子黒板 I C T 機器を使ってかかわりを持たせるという事に向かっているとされました。やはり校長先生、学校教育の意義の一番大きなところ、人と人との関わりを通して自分を高めていくところを非常に大事にされているところが大変うれしく思いました。多分どこの学校もやっていると思いますが、どうかここを大事にしていきたいと思います。

それから、二中の方ですが、子どもたちにどんな力を付けたいのか自分の意識で出来る事と言われていました。自分が言われて動くのではなく、とにかく人を守るために、そして自分を守る為に自分をどう持てばいいか、ここらに視点をおいていらっしゃる。これからもこういったコロナ禍でも教育視点の一つになるのではと思います。

最後にどちらも行事を中止したり縮小したりしておられます。その中でもやはり話を聞いていると、子どもをどういうふうに育てたいかという事を中心において、縮小したり或いは練習時間を縮めていらっしゃいます。日本の学校行事とか特別活動は、外国とは違って非常にたくさん時間を取ってやってくるんですけども、その中に授業ではやれない大切なものがあります。それをコンパクトにしなければいけないという事で、このピンチをチャンスに変えるというか、仮にコンパクトにしたり、練習時間を短くしても子どもたちの為に何が出来るかという視点で行けば、充

実したものにやるのではという気がしました。ポストコロナにおいても、こういった考え方が出来るのではないかという思いがしました。

仲野委員

ありがとうございました。私も二中の卒業式に行かせていただいて、いろんな制約の中でありながら、特に卒業生の答辞を聞いて、色んな困難がありながらその中で、工夫をされていることを聞き、本当に安心したなというのがあります。一方で子どもたちの話題についてですが、特に第6波の場合は、子どもの間に広まって、恐らく先生達の間にも子どもを通じて感染するのではないかという不安もあったのではないかと思います。そういう意味で言えば、先生達に対する何らかのフォローをしておかないといけないと思います。たとえば、心のケア問題もそうです。従来ですと保護者と生徒一斉に、クラスに集めて、自分の学校の経営方針、学級の経営方針を伝えることができますが、そういう機会が無ければ、なかなか保護者とのコミュニケーションが取れないし、そういう意味で先生達のフォローというのをキチンとしておかないと、それがかえって子どもたちの心に影響するのかなと思いましたので、是非ともそういった先生達の悩みとか、心のケアというのは教育委員会のほうで対応していただくようお願いします。

教育長

ありがとうございました。お2人の校長先生からは、やはり子どもたちも先生方も悩みながら、でも前向きに、丁寧に取り組んでいただいている実態をお聞きしました。

最後に仲野委員さんがおっしゃったように教育委員会もそういう先生方或いは子どもたちをフォローしていけるよう、心を砕いていきたいと改めて思ったしだいです。貴重なご意見ありがとうございました。

最後になりましたが保護者の立場としまして、大田市PTA連合会の土江会長様にご意見を伺いたいと思います。よろしく願いいたします。

土江会長

「保護者としてのかかわりについて」という事で意見発表させていただきます。

PTAとしましてwithコロナ時代における活動ですが、コロナがある事を前提で活動方針を決めまして、オンラインなどのICT機器を利用したり、意見聴取のアンケートを取ったりして、コロナに対応した活動・事業展開はできています。そういった点では、別段コロナだからと言って、これがPTAとしての活動だと難しいよねという所が段々無くなっていますので、そういう所も年を重ねる毎に洗練されて、より良い事業が出来るのではないかと思っています。PTA連合会では毎年、研修大会というのを開催しておりまして、こちらの方も今年度は完全にオンラインを利用する形となったのですが、逆にオンラインを利用する事が功を奏して、例年ですと現地に集まって見ていただくものがオンライン・リアルタイムの配信ならびにその時間帯に視聴できない方への、このオンデマンド配信する事で、今まで以上の人に見て、学んでいただく機会をとることが出来たので、これはこれで良かったなと感じております。

先程、GIGAスクールについてや、日常の学校生活について各学校から

状況説明していただきまして、保護者としては大変ありがたいなと感じております。通常の学校業務をしていただくことプラス更に、コロナに対応したオンライン授業であったり、学校の感染防止対策を取ってもらって、更に授業を進めていただけてかなり負担が増えているのではないかとこのように感じておりますが、オンライン授業については、やはり市内の全小中学校で実施できているわけではありませんし、可能であれば、やっぱりどの学校でも同じように対応していただけたらと思います。しかし、PTAの保護者と言いましても小学校1年から上は中学3年までという事で、なかなか下の学年にオンライン授業というのは、難しいかなと思います。先程、三中さんの方では1年生5人で授業を進めてもらってスムーズに行きましたとありましたが、これを一中で1クラス25人だった場合に、先生は授業を回せるかどうかと、いろいろ考える点はあると思います。

そういった点も踏まえて、教育委員会の方で大田市としてのオンラインの授業をこういうふうに対応して進めて行きましようといったガイドラインを作っていただく事で、他の学校の対応をもう少しスムーズに出来るのではないかと考えております。又そういうふうな物を導入するに当たって、学校の先生にもっとITの事を勉強してもらって、もっと進めて貰わないと困りますとこちら側から一方的に言うのではなく、やはりそういう物を導入するに当たって専門的な知識を持った職員の配置を小中学校においていただかないと、なかなか先生ばかりに負担が増えるだけでスムーズに物は進んで行かないと思っております。そういった事に対しては、コミュニティスクールにもそういったことをお願いする制度がありますので、PTAとしましてもそういった所へ積極的に働きかけて各小中学校へIT、GIGAスクール等に特化した職員の配置をお願いして行く事で解決できればいいかなというように思っています。それで、もし万が一臨時休校、学級閉鎖になった場合でも授業が遅れる事なくついて行ける環境が整えられれば、よろしいのではないかと考えております。

GIGAスクールで昨年度位から各学校へパソコンを配られて、各授業に取り入れられまして、正直、子どもの方は与えられた物を使いこなすというのは、もの見事に使いこなしますので、それよりも大人の方が付いていけない状況ですので、子どもの教育というよりも保護者の教育も必要ではないかということで、各小学校で保護者の方で研修をどんどん導入していくべきかなというのを感じております。

長久小学校のPTAでは、本年度実際に疑似的に保護者さんを集めまして、実際にGIGAスクールでパソコンを使った授業をどうやっているのかを大人が受けてやってみました。先生側のパソコンで見ると、どの子がどのくらい進んでいるか、この子がこの部分でつまづいていると一目で見てわかるように視覚化されていました。そういったところを見かけると、そこへ行ってサポートしてあげると言うように、学ぶ環境としての

しくみは出来上がったものがありますので、これをもっと頻繁に取り入れたり、スムーズに使いこなしていただくことで、もっともって学ぶ機会や、子どもの学力向上に役立つのではと保護者として実際に感じる事が出来ました。

委員さんが言われるように、情報モラルの点で子どもたちのいじめに繋がる様なSNSの使い方であったり、通信手段については学校もなんですけど、やはり家庭における教育がかなり大きく占めているのではないかと感じております。実際子どもに個人を攻撃するような書き込みをしてはいけませんと、口では言えるのですが、それを日頃からメッセージのやり取りした物を毎日、お父さんの所へ持って行って見せてみなさいという事もプライバシーの事もありますのでなかなか出来ない状況であって、そういった事をさせない子どもたちの心を育てて行く教育方法を保護者として学んでいかなければいけない。そういったところを対応出来たらなと思っております。

もう一つ、そういった状況で学校とやり取りについて、今まではいろいろ学校から便りが届いていたんですけど、そういった情報をいただくのに今までですと紙ベースのたよりを子ども経由で保護者が受け取る方式でしたが、この間の学校評価委員会のアンケートでもあったのですが、学校は100%文章を出しているが、しかし、それが保護者に100%届いているかというところ7、8割くらいしか届いていない。子どもが出すのを忘れたとか、受け取ったけれど保護者が後から見ようとして何処かへ行ってしまうという事でした。100%発信する側と受け取る側とがやり取り出来ていないといけないというところで、各学校からメールを使った連絡というのも入って来るようになってきたので、紙だけの時よりは、いくらか情報のやり取りがしやすくなっているのではないかとはいえます。しかし、学校それぞれ使っているメールのシステムとかサービスがいろいろ違うようですので、ここまですんなり、この学校だったら対応出来るけど、こっちの学校はメールで一方向的にしか送るしか出来ないとか、逆に双方向通信で情報を集める事も出来るような学校もあつたり学校によって差異があるので、可能であれば、この辺を統一したものを大田市のサーバーを使って、学校で利用出来る統一システムが出来ていけば、もっといろいろな情報のやり取りや細かな内容発信等も出来るのではないかと思いますので、可能であれば大田市として対応していただけたらと思います。

教育長 どうもありがとうございました。今年度は、会長さんのリーダーシップのもとに市P連の皆さんと教育委員会と数回、大田市の教育について話し合いを行いました。非常にありがたく思いました。今、会長さんから4、5点の提案がありましたけれども、委員の皆さんは何かありませんでしょうか。

福間委員 提案というよりは、今まで非常に大事にしないとイケないとされた事を改めて今日このチャンス、コロナ禍のチャンスではないかと思えます。や

はり学校教育にかなりの依存をするのではなく、土台にあるような家庭教育とか地域教育とかそれから学校教育。この三軸をキチンとシステム化して、歩むチャンスではないかと、今話を聞かせていただきました。ここが揺らぐと大田市の教育の発展はないのではないかと思います。先程も言いましたが、大事だと言われながら、意外と三軸が一体となっていなかったという気がします。

竹下委員

総合教育会議の中に、保護者の方がおられて発言されたというのは今回が初めてだと思います。そういう意味では本当に子どもを見つめる保護者の立場から、かなりいろんな良い意見を伺ったと思いました。ありがとうございました。先程モラル教育についてありましたので付け加えたいのですが、杉並区の小学校の例ですが、そこではSNS東京ノートというのがあって、これは東京都の教育委員会が作成した教材で、それを使って情報モラルの教育をしているということです。例えば自分で勝手に色々な情報を発信する訳ですが、匿名だから発信しているという事があります。けれども、端末には、あなたが発信した内容の記録が全て残っているんです。ということ子どもに伝える、それによってあなたが今やっている事が、どういう事になるのかという事を考えなさいよ、と言うような心の中にセキュリティをかけるという教育をやっている事例がありました。やらせないとか、触れさせないとかでなくて、それをしながら安全な範囲で付き合うという方法を教育委員会の方からも考えていただきたい。それから長久小学校で保護者が生徒になって体験したというような話がありました。いろんな大人が体験しても面白いのではないかと思います。

梶 委員

学校での感染が起こった時の突然の休校とか学級閉鎖に対して、保護者の協力が無ければなかなか難しい事ですが、保護者の皆さんにご協力いただいて深く感謝しております。

会長さんは、冗談を交えて言われましたが、子どもたちの家庭学習を見ていただいているんだなとうれしい気持ちになりました。

最後に、会長さんが言われるようにどの規模の学校でも先程の例のような授業が出来るようにして行く事が課題かなと思います。どうもありがとうございました。

教育長

皆さん活発にご発言いただきありがとうございました。実は今年度、学校が大変見えなくなったとか、身近に感じられなくなった、分からなくなったという声を様々お聞きました。そこで現場の状況を、このようにみんなで共有しながら、これからの大田市の教育について語り合える場があると良いなと思ひまして、本日の総合教育会議をこのような形で開催させていただきました。現場の校長先生方、PTA会長様につきましては、それぞれ率直に、ありのままをお伝えいただきましてありがとうございました。最後になりましたが、本日の意見交換会につきましては、市長さんから感想等お話いただきたいと思ひます。よろしくお願ひします。

楫野市長

様々な現場からの経験、状況を教えていただきありがとうございました。

見えない部分もありましたので、本当に私も勉強になりました。竹下委員さんも言われましたように、今これからの正にデジタル化社会、世界的には日本は遅ればせながらになるのですが、いよいよ本格的になって来ます。それがコロナ禍で一挙に進んだなというのが感想です。GIGAスクールも3年かけてというのが一挙に国が予算化して、一気に入れるという話になりました。令和7年度にデジタル教科書導入して行くというので、現場では待ったなしの状況ですが、今から準備しておけば令和7年度には、スムーズに移行出来るかなという感じがしているので、今は、試行錯誤しながらやっていただければいいし、それを又校長会等で或いは、それぞれの研修会で共有して又現場へフィードアップして行く、これを繰り返しやって行く事が必要かなと思っています。その中で必要なインフラ整備、必要な予算はしっかり付けて行くということをやって行かないといけない。この庁舎についてもデジタル化社会に向けたものにしていかないといけないことから、やっと庁舎内にもWi-Fiが整いました。遅ればせながらデジタル化社会に向かって一歩進んだと思います。

学校現場で言いますと、今の中学校2年生は、3年間ずっとコロナと共に学校生活を送るという世代なんです。コロナの無かった時代が無いっていう世代になっていて、ある意味かわいそうだなと思う反面、こういう社会でも生き抜ける力が生まれたとも言えるのではかと思っています。中学校という多感な3年間をコロナと共に生きなければならない。我々にとっては考えられないような世代になってしまったなと思っています。その中、全国大会で優勝するようなたくましい子どもたちが育っているわけで、そこは私も自信を持ちたいです。

よく、感染症対策を徹底すると言いながら、実は、なかなか難しいですね。色々な人に、感染症対策を勉強してくれと言いたくなる。正しい感染症対策は、正しい感染症対策を学ばないといけない。正しく恐れないといけない。今日もそうなんですけどマスクしている限りにおいては、実はここで1人の感染者が出て濃厚接触者にはならない。マスクを外して15分ですか、そういう濃厚接触者の一定のルールがあって、マスクを外した場面が一番危ないので給食は黙食をという話になっています。部活も体育もマスクを外してやるので、そこでは感染リスクが高まります。今回、大田市でも学校からクラスターが出ましたけれど、これもマスクを正しくつけてなかったために、拡大したものです。だからマスクがキーなんです。正しい方法をしていけば、そこまで恐れなくていいと思います。部活でマスクを外すのは、リスクを取っても部活をやるという事が、子どもたちの成長を促すから。リスクを取ってでもやらないといけない訳です。どこでリスクを取って、リスクのないところでは、ある程度感染予防を徹底して通常に戻して行くということをやって行かないと、いつまで経っても恐れているばかりだと、本来学校が持っている教育力というものが減じられていることになるのではないかと、というのが私の感じている事です。

それからイベント開催の時期の問題があります。この2年間見ていて6月、10月、11月はほぼ蔓延が止まっています。2年間同じ傾向です。第6波もどこかで落ちるのではないかと私は思っています。その時期は、その時期なりの対応をして、蔓延時期には蔓延時期に併せて行く、メリハリが必要ではないかと思えます。逆に言うとそういう時期に、本来学校で一番楽しい運動会だとか、修学旅行などの行事をあわせて行く、そういうことも必要ではないかと思えます。

それから、教員と保護者両方ともデジタル時代に併せたような勉強をどんどんして行かないといけない。それで目線合わせをして行く事が大事だと思う。それから、不登校児の方が授業にアクセス出来るデジタルについても大事な事だと思えます。今までは学校へ行っても保健室しか行かれない子どもとか、もともと学校へも行かれない子どもさんでも、ズーム等によって授業の様子が見れるという活用ができるのではないかと思えます。そういう形でしっかりとこのデジタル化を上手く利用して行けば、もっと今まで出来なかった事が出来るのかなと思っています。ただ、みんなが慣れていないので、慣れる努力をして行かないといけないと思っています。

土江会長が言われた、学校毎に違うシステムというのは、実は、校務支援システムというもので、石見地方の市町村と組んで統一的なものを作ろうと工夫しながら行っています。そういった環境整備を含めてしっかりと我々としても協力していきたい。今後も意見交換をしながら進めていきたいのでよろしく願いいたします。ありがとうございました。

教育長

市長、力強いメッセージありがとうございました。本日、皆様のご協力によりましてこのコロナ禍であっても大田市の教育に明るい展望が持てました。或いは、時代のスピード感におくれを取らないようにという思いも強くした会議でした。皆様のご協力に感謝申し上げます。ありがとうございました。

傍聴の皆様もどうもありがとうございました。それでは事務局へお返しします。

森 部長

皆様ありがとうございました。本当に活発なご意見をいただきました。いろいろ要望もありました。そして改善要望もありました。現状をみんなで共有出来た事が、これから行政施策を進めて行くうえで非常に有益だったのではないかと思えます。今後の取組みに活かしてまいりたいと考えております。以上を持ちまして大田市総合教育会議を終了いたします。どうもありがとうございました。

議 事 録 確 認 書

会議名：令和3年度第1回 大田市総合教育会議

日 時：令和4年3月17日（木）午後2：30～

場 所：大田市役所4階大講堂

大田市長 楳野 弘和 様

大田市教育委員会が調整した上記会議に係る議事録に記載された議事内容について確認しました。

令和4年6月1日

大田市教育委員

楳 伸光

大田市教育委員

竹下 ちとせ

大田市教育委員

仲野 義文

大田市教育委員

福間 信隆

大田市教育委員

木村 貴子